ふれあいのひろば

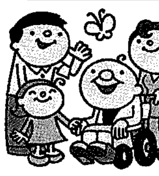
かわら版

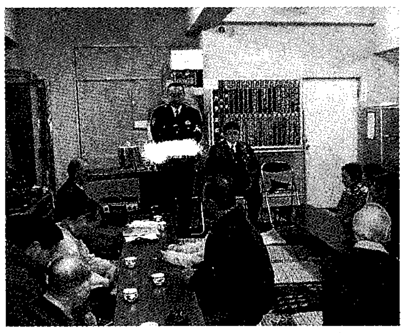
平成21年４月１日発行
上平間第二町会
編集責任者
堤　　秀夫
印刷所　長谷川印刷㈲

安全安心の町づくり
防火　防犯を地域ぐるみで

上平間第二町会は毎月10日を防犯デーに指定し、有志による防犯キャンペーンを実施しております。その他毎月、上平間交番の警察官と提携して夜間の合同パトロールを行っております。また、２年前から管内３小学校の通学路の要所に地域の人達の協力を得て、児童の見守り活動を展開しております。

是非、これらの活動が皆様方の御協力により実のあるものとなり地域の安全安心に貢献できる様願っています。





中原警察署員の犯罪発生情況説明
歳末警戒パトロールに際して

警察の話を真剣に聞く参加者

中原消防署員の火災発生情況説明・歳末警戒パトロールに際して

こども凧上げ大会
多摩川青少年広場
１月12日

快晴で絶好の天気に恵まれてこども凧上げ大会が行なわれました。参加者はこどもの申込者が１５５人、青空野球部のこども達が20人、付き添いの親達をいれると、約２５０人を数える盛況となりました。

凧上げ大会会場
上平間第二町会青少年部

わたしの町のすこやか活動
活動事例集の発刊について
川崎市

上平間第二町会並びに上平間第二老人クラブを母体にして活動している玉川地区すこやか活動について、このほど20年度活動事例集が発刊されました。

版権が神奈川新聞社にありますので写真版などは掲載できませんが、要旨を述べますと、タイトルは「昔の街のような見守り機能の再生を目指して」ということで、サブタイトルに代わる説明は「道行く子どもたちに声をかけ、近所に住む高齢者を気づかう：昔は街が普通に持っていた役割を再構築する試みが、玉川地区では始まっています。高齢者と子どもが安心して楽しく暮らせる街が目標です」と書かれています。パターゴルフ、地域の見守り、頭の体操、健康体操、カラオケ大会等の様子がカラー写真で紹介されております。さらに今後の課題として「災害救助のためのネットワークの整備」があげられ、そのために必要なのは、近所隣りの交流を深め、どこにどんな人が住んでいるのか、みんなで認識しあうこと。玉川地区の試みは昔の町がもっていた機能を取り戻すことにほかなりません。と指摘されています。この事例集は一万五千部が印刷され川崎市の全町内会を始め、福祉関係者や関係行政機関にも配布されるとのことで、私たち町会、老人クラブ、その他すこやか活動推進委員会の関係者に対して大変な励ましとなりました。

平間小学校校長室にて
見守りメンバー

平間小学校通学路にて

玉川小学校通学路にて

第80回　高齢社会対策
推進委員会

高齢者の閉じ籠もり、引き籠もりを防止し、介護予防のために積極的に門外に出て地域の人との交流を促し、併せて地域担当役員や理事、委員による家庭訪問による見守り結果を報告して、異常を感じた場合には関係機関に連絡する役割を持つこの委員会も、原則月１回の開催で80回を数えました。

高齢者見守りの各区担当者達と民生委員

第二町会担当の民生委員
左から鈴木、秋元、伊藤、若桑、井出の５人の委員

継続は力なりの諺をモットーにして頑張る心算です。

推進委員会・委員長　山上　正

101才堀内信行さん宅にて

ミニディサービスのひとこま

町会活動推進検討委員会
新年度に向けて活発討議

会長、会計、各専門部の部長をメンバーとして構成されている検討委員会が開かれ、フリートーキングで自分の所管に縛られることなく、町会活動の推進策について議論しました。

長年の伝統のある町会ですので奇策はある筈はありませんが今町会に求められている役割は何か、そして何が出来るか、というテーマが議論の対象となりました。現実には地域のいろんな活力は崩壊し全国の市街化された地域における町内会、自治会活動は衰退の一途をたどり、辛うじてボランティア、趣味でつながりが有る程度になっているという学者の調査結果がありますが、これでは地域の近隣はカバーできず、いざという時の救援には無力です。町会では地についた活動を模索いたします。

打ち解けた中で議論

各部長による前向きの会議

ふれあい投稿コーナー
三太

大旦那が三太の鯉を、庭の蓮池へ放り込んでしまった。

池は広い。

何十匹という色取りの鯉の中に、三太の真鯉（まごい）もあっという間に紛れてしまった。

おっ母に食わせてやろうとして、八才の子が冷たい川の中から、やっとこ掴まえてきたのである。

それなのに、長屋で待ち構えていた大旦那は、溜まった店賃の代わりだと決めつけた。

しかし、歯を食い縛ったままで、三太は絶対に泣こうとしない。

それが余計に憎らしいのか、返して欲しけりゃ、店賃を持ってくるか池に飛び込んで自分で取ってくるか、そのどっちかだと、大旦那の声は一段と大きくなった。

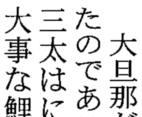
「但し、他の魚にちょっとでも傷を付けたら許さないぞ」

これを聞くと、家から手桶を取ってくるや三太は必死になって水を汲み始めたものである。

十杯、二十杯、三十杯。

それでも蓮の茎が長くなったようには、見えてこない。

四十杯、五十杯、六十杯。



ようやく、水面が少しは動いた。

七十杯、八十杯、九十杯。

池の回りは水浸し。

「一体、どうする気だ」

大旦那の顔色が変わり始め、あんぐりと口を開けたのは夜明けだった。

三太が夜通し黙々と汲み続けた結果、ピチピチとした鯉の群れが、とうとう背鰭を一斉に水の上へと泳がせ始めたのだ。

子どもと侮ったのは、間違いだった。

いつまでと、時間を制限しなかったのも間違いだった。

細い両腕が、棒になっている。

それでも、三太の黒く丸い目はまだがんばると言っていた。

もう真鯉は手に取れる、それなのに。

大旦那の太い両腕がプルプルと、身体の脇でふるえだした。

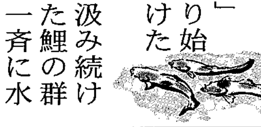
これ以上、水を汲まれてはたまらなかった。

とうとう、

「参った、わかった」

大旦那が声を絞ったのである。そこで三太はにっこり笑い、大事な鯉を抱えあげた。

（井　蛙）



イタリア紀行
ポンペイを旅して

旅風会幹事　堤　秀夫

ポンペイの遺蹟にて
2007年11月　小島添乗員と

ローマ市内から古代ローマ軍の進撃した道路、アッピア街道に沿って新しく出来た高速道路を一路南下すると、約3時間でナポリへ到着します。

ナポリを見て死ねと言われる世界三大美港の一つです。間もなく左手に大きな雄姿を現してくるのがベスビオ火山で、その優しい姿に似合わずに、まだ活火山です。そして紀元79年に起きた大爆発によりポンペイの悲劇が起き、火山灰と毒ガスによって3日間に及ぶ大惨劇、そして静寂。二千年前の町の姿、生活の息吹がそのまま残されました。

私達は現地ガイドの案内でフォロ（広場）、神殿、食品市場、噴火による犠牲者の遺体、素晴らしい壁画の残る家などを見て歩きました。

二千年前の共同水道、道路の馬車の轍の跡、公衆浴場などを案内されて、その文化の高さに驚きました。なにしろ日本では弥生時代と言われる昔の事です。

昨年は源氏物語千年紀となり話題になっていますが、ここに眠っている遺体は、二千年前の人々であり感慨深いものがあります。

特に今度の旅は参加者の心掛けが良かったせいでしょうか非常に良い天気に恵まれました。そしてこれまではバスの入れなかった進入道路が出来た事からその壁画の存在により古美術の最も重要な建物の一つになっている秘儀荘を見ることができました。ディオニゾスの秘儀といわれる儀式の描写は、その使われている塗料の朱色と人物のしぐさから古代のロマンが漂っています。

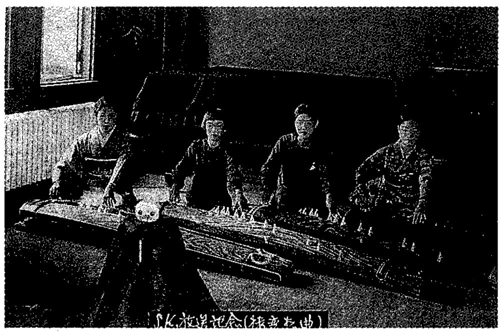
ポンペイの膨大な遺蹟群をたった一日で見ること自体が所詮無理ですが、古代ローマ人たちの生活がそのまま今日に残されていて、じっと目を瞑っていると、人々の話声や街の喧騒が聞こえる様な錯覚に陥ります。

約200年前にポンペイを訪ねたゲーテは「この世には今迄に多くの災害が起こった。しかし後世の人に、これ程の喜びを与えた災害も少ない。これ程面白いものは滅多にあるまい」とイタリア紀行に書いています。

私の脳裏にはベスビオ火山の上に広がる空とナポリ湾の海の色が共に青く輝いていたのが残影となって、いまでも焼付いております。

思い出のコーナー
出征兵士の門司出航

11区　渡辺　富代


門司高等女学校3年　右から2人目
小倉放送局で琴を演奏する（昭和9年）

私は大正10年九州の門司市で生まれ、今年87才になります。当時、家業は板ガラス、グラス、絵などガラス一般の販売を営んでおり、私は4人兄弟の末っ子でした。昭和11年に門司高等女学校を卒業して、そのまま家業の手伝いをしておりました。

その頃は日中戦争中でしたので、門司港から外地へ出発する船が沢山ありました。市内の旅館は満員なので兵隊さん達は民家に分散して宿泊し、出航するとすぐに次の兵隊さんが来るという繰り返しでした。船が出航する際は兵隊さん達を一般の人や学生たちが岸壁で盛んに見送りました。

やがてアメリカとの戦争が始まると暫らくは平穏でしたが昭和20年3月に門司は激しい空襲を受けて町全体が焼野原の様になり、まるで灰の積もった町の様になっていました。空襲の際は飛行機から縫い芯の様に点々とつながった火のついた焼夷弾らしきものが落下して、建物にベタッと張りついたことを今でもはっきりと覚えています。

その時、父は実家の熊本に帰っており、母は私が18才の時に急死し、兄2人は兵隊にとられていましたので、私は一時知人の家に身を寄せたのち、熊本へ移りました。

戦後、東京へ来て品川に住んでおりましたが、現在の場所には昭和29年か30年に引越してきました。ですからもう50年になります。

主人、渡辺鉄太郎は3年前に他界し、娘2人も他所で世帯を持っておりますので、現在は全くの一人暮らしです。しかし、戦争中に苦労した事が私を強くしたのかも知れません。何でも自分でやっておりますし、私は平気です。ただ、娘たちとは時折、電話で連絡をとって無事でいることは知らせることにしております。

最後に、私は平和な戦争の無い時代が続くことを心から願っています。

入会を歓迎します

町会　俳句の会

連絡先(511)1821高山

俳句

天神台句会

21年2月18日

かたかたと切りアメ賑し初大師
木枯らしや大樹を揺らす鷹一羽
道問われ心もとなや春ロード　青木　源司

園内は紅白梅の香に満ちる
木枯にむかい我武者羅（がむしゃら）駆け抜けり
和ろうそく灯（とも）して祈る建国日　荒井　スミ

雪柳花芽撫で行く春一番
木枯しや巣立し烏（からす）弱き声
来年は伐らねばならぬか青木の実　梅田　松男

留守居とて今日も賜る日向ぼこ
木枯しや夜空を掃きて星うるむ
これ程に白梅咲かせ湯島かな　川部　露子

立春や諏訪湖に小波立つ夕べ
祖母の手に似しが梅の枝ほころびて
木枯らしも忘るるまでの華の海　斎藤　正子

梅園の水琴窟の香りの音
鼻と口無くして防ぐ花粉かな
鼻聾（はなつんぼ）の男と歩く梅の道　佐藤　輝之

春浅し壊れ行く人見舞ひけり
友入院空家なれども梅は咲く
枝垂梅枝の先まで白い花　四津田冨美子

探梅や心通わす友々と
枝先を揺らす風にも春探す
木枯しの奥に聞こえし父母の声　高山　房子

蒼天を行く鳥もなく春遅し
合否待つ落ち着かぬ娘にうかれ猫
凩にくるり舞う葉のひとり旅　滝口　園美

木枯しや乳飲み児を抱き慈母の顔
人混みを孫の手をとり初大師
初春の老人会や声若し　堤　秀夫

はらはらと目白遊ばす梅日和
木枯らしや炬燵に時間取られけり
節分や子等の目線の痛さかな　山上　正

春の墓地水汲みの間の光かな
取れそうな釦（ぼたん）そのまま春隣
大空や梅さまざまに五重の塔　松森　礼子

鬼やらい孫に任せて燗の酒
凩の彼方に富士の輝きて
木枯しに耐えて咲く日を待つ蕾（つぼみ）　茂木　久夫

薄氷（うすらい）や河に目瞑（つむ）る番鳥（つがい）
路地裏の三角関係猫の恋
薄氷や秘めたる事の溶け出でぬ　長谷川照世

田の神を座り直すや春祭
凩や風に彷徨（さまよ）う街に居し
役下りし家路に明（あ）かく春満月　小島　功一

短歌

快晴の朝吹く風のやさしくて
　心豊かにゆずジャムを煮る

切々とおわらを唄いくれし友
　物言えぬ床に臥す目はやさし

伊豆の海明け初むるより見つめ居り
　やがて出で来し陽に言葉なし
高山　房子

梅の枝そっと見上げて春を待つ
　老いの二人に陽射し優しく

凩（こがらし）の狭（さ）庭に芽吹く生命（いのち）あり
　名もなき花の健気（けなげ）さ愛（め）でむ

ガン手術を終えて

麻酔覚（さ）め顔朧（おぼろ）げな妻なれど
　掌（て）の温（ぬく）もりは確（しか）と受け止む
茂木　久夫

公園の桜の下の祭壇に
　さわらないでとかわいい手紙

透き通る欅（けやき）の新芽どこまでも
　大陸恋うる友も居た日々

五月晴れ一級河川の煌（きら）めいて
　蝶の渡れば紛れてしまう
松森　礼子

小中生短歌を詠もう

決め事は五七五の七七に
　喜怒哀楽を綴れば短歌

出来たならお母さんにも見せて見て
　二人で作るかんたんたんか

さて秘訣言葉感性ひねり出し
　頭使えば君等（きみら）は歌人
先に生まれた人

快晴は人の心をさわやかに
　もっとこのままつづいてほしい

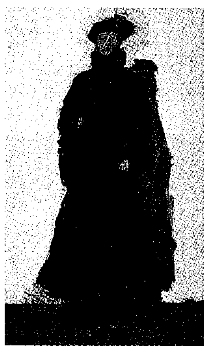
卓上の珍らしいそうざいに
　たれが一番先に箸をとるかな
S女88才

手作りの野菜引き売り五十路経ぬ
　老婆推されて市議と議長に

立春は名のみか寒さ尚厳し
　桜前線いとど待たるる
H生

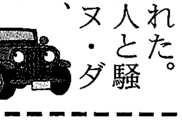
子を持てぬ覚悟し娘オペ室へ
　我に手を振る笑みさえ浮かべ
慈声

二人のマタハリ


クレラーミュラー美術館
マタハリの肖像画

オランダ・アムステルダム中央駅から列車で1時間のところに、広大な敷地をもつ、デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園があり、その中に国立クレラーミュラー美術館がある。ゴッホの作品270点以上を収蔵している世界でも屈指のゴッホ・コレクション美術館である。展示絵画の説明は有名なものに限られるのは、時間の関係で致し方ない。そうした中で特に異色の説明があった。有名な女性スパイ「マタハリ」の肖像画である。「マタハリがドイツのスパイとしてフランス政府に逮捕されたのは1917年2月で、10月にはパリで銃殺されている。ところがこの肖像画の制作されたのは1916年でパリ社交界で一世を風靡していた時と思われ、噂に違わず素晴らしい美人である。」マタハリはオランダ軍将校の妻として、ボルネオ、ジャワなどを転々とした後、インド舞踊のダンサーとしてデビュー、政治家、軍人など有力者と交際が深く、それがドイツにスパイとして取込まれることになり、世界スパイ史上無類の妖艶な存在となった。因みにマタハリとはマレー語で太陽を意味する。

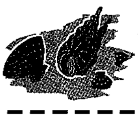
一方、日本にも東洋のマタハリと言われた川島芳子がいた。中国の清朝王族の娘で満蒙独立運動家として、清朝復活のため、日本軍に協力したため、日本敗戦後、中国国民政府軍に捕らえられ、昭和23年5月25日、北京第一監獄で銃殺された。川島芳子は男装の麗人と騒がれ、東洋のジャンヌ・ダルクと激賞されたが、日本の敗戦により東洋のマタハリと評価は落ちることになる。



後の世の人は、この2人の麗人に同情を寄せているが、激動の時代に翻弄された犠牲者であることには違いない。マタハリの肖像画が世界有数の美術館に展示されていることも、更に彼女の出生地であるレーワルデンのフリース博物館にマタハリ・ルームがあって、衣裳や写真などが展示され、博物館の前には彼女の像が立っていることも、また、川島芳子の遺骨が日本での故郷、信州松本の正鱗寺に手厚く葬られたことも、戦争の犠牲者を悼むという意味ならば、理解できないこともないだろう。だが、2008年中国吉林省の新聞は、処刑場で芳子は別人にすり替えられ、78年迄生存していたという信ずべき証言があると連日報道しているという。

果してどうであろうか。

＝蜃気楼＝



詩

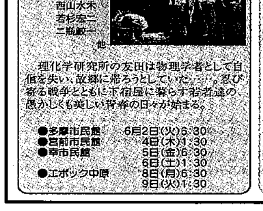
写真

父に寄りそう
母の笑顔があった
やわらかな冬の
　陽のさし込む
二人の部屋に
辛いことも共に
　のりこえた
おだやかな時が
一枚の写真に刻まれている
今日は笑いながら
　話しかけ
明日は涙でぼやけた目で
二人の姿を探しています
　写真の中の
　同じ季節に…

ペンネーム　宮沢　治子

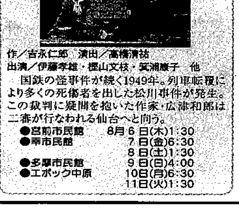
町会文化部・演劇鑑賞の会

問合わせ、申込は、(522)3580堤へ


第290回例会　俳優座劇場プロデュース
東京原子核クラブ
作／マキノノゾミ
演出／宮田慶子
出演／田中壮太郎
西山水木
若杉宏二
二瓶鮫一
他

理化学研究所の友田は物理学者として自信を失い、故郷に帰ろうとしていた……。忍び寄る戦争とともに下宿屋に暮らす若者達の、愚かしくも美しい青春の日々が始まる。

●多摩市民館　6月2日(火)6:30
●宮前市民館　4日(木)1:30
●幸市民館　5日(金)6:30
6日(土)1:30
●エポック中原　8日(月)6:30
9日(火)1:30


第291回例会　劇団民藝
静かな落日
作／吉永仁郎　演出／高橋清祐
出演／伊藤孝雄・樫山文枝・箕浦康子　他

国鉄の怪事件が続く1949年。列車転覆により多くの死傷者を出した松川事件が発生。この裁判に疑問を抱いた作家・広津和郎は二審が行なわれる仙台へと向う。

●宮前市民館　8月6日(木)1:30
●幸市民館　7日(金)6:30
8日(土)1:30
●多摩市民館　9日(日)4:00
●エポック中原　10日(月)6:30
11日(火)1:30